アラシャーの詩人ズーンガル・ボヤンバトの韻文の描写の特徴
－「時間」の範疇と芸術的描写－

リリ（Ли Ли / Li Li / 麗麗 /丽丽）
モンゴル国立大学文学研究プログラム博士研究生

ズーンガル・ボヤンバトは、中華人民共和国内モンゴル自治区アラシャー盟（阿拉善盟）アラシャー右旗（阿拉善右旗）タムサグボラグ・ソム（塔木素布拉格・蘇木）出身で、姓はズーンガルである。彼は人民教師（中学校の歴史教師）であるが、中国作家協会会員、中国少数民族作家協会会員でもあり、中国第４回八省「天空の子駱駝」詩歌朗読祭で第１位を獲得し、中国〔少数民族〕「ドルノ／朵日納（東方）」文学賞受賞作家、内モンゴル自治区「ソロンゴ／索龙嘎（虹）」賞受賞作家でもある。『九宝の旋律（Есөн эрдэнийн аялгуу）』、『詩歌による癒し（Яруу найргаар тайтгарахуй）』などの詩集を出版している。

ボヤンバトの『九宝の旋律』という詩集に掲載されている長編詩「ジャンガル叙事詩から脱落した旋律（Жангарын туулиас алдуурсан аялгуу）」は、アラシャーの人びとの歴史を芸術的に表現する初めての試みであり、同地方の特徴、時間と空間の概要、生活と芸術的真実が重層的に描かれている。さらに、彼はこのような初めての試みを明確化して、ゴビ地方の生業の描写に分析を加え、文学における時間と空間の範疇の構成を案出し、一つのまとまった純粋な意味を表現している。彼のこのような文学の時間の範疇を利用して、過去・現在・未来を結びつけて表現した、あるいは宇宙の時間という驚嘆すべき魔力を平凡な生活の出来事と結びつけ、深遠な意味と繊細な感覚を描写した多くの詩作品は、次作の『詩歌による癒し』という小冊子の詩集にも多数ある。たとえば、「ゲルの黄ばんだ跡地（Аргил шаргал бууц минь）」という詩には、アラシャーの田舎の草原にかつてあったあるゲルの跡地のそばで、この詩の主人公の「私」が沈思黙考して詩作にふけりながら、はるか彼方の時間にいるアグワーンダンダル（1759-1842, アラシャー出身のラーランバ〔лхаарамба〕の学位を持つ高名な学僧にして文人のアラシャー・ダンダル・ラーランバ）、ツァヤンジャムツ（1683-1706, 多くの恋愛詩を残したことで知られるダライ・ラマ６世ツァンヤン・ギャツォ〔ギャムツォ〕。モンゴル語ではツァンヤンジャムツ〔Цанъянжамц〕とも表記）、ナツァグドルジ（1906-1937, モンゴル人民共和国の著名詩人ダシドルジーン・ナツァグドルジ？）らに想いを馳せて信奉している姿が描かれている。このことはつまり、彼らの時代からアラシャーの詩歌の女神（ミューズ）が絶えることなく続き、その継続がこの「私」なのだという、長い歴史の情報が抒情的な描写によって簡潔に表現されている。言いかえれば、〔現代の読者に〕アグワーンダンダル、ツァヤンジャムツ、ナツァグドルジらの生きていた時代の読者であることを想起させ、時間を超えた旅路へと誘っているのである。「ああ、私のアグワーンダンダル兄さん（Аяа миний Агваандандар ах минь）」という詩には、この詩の主人公の「私」が、現在の生活のどうにもならない状況に苦悶し苛立っているときに、時間の彼方にいる同郷の賢き兄アグワーンダンダルに向けて優雅な四行詩を創作する。こうしてアグワーンダンダルのいる時間へと赴き、当時のモンゴルの有様を創作したことは、芸術技量上の重要な発見にほかならない。別の「饒舌な白い母駱駝の意気地なしの白い子駱駝（Яриг цагаан ингэний сариг цагаан ботго）」という詩では、モンゴル帝国建国からの 800 年の歴史的時

間をボルハン・ハルドゥン山と結びつけ、モンゴルの暮らしを孤児（みなしご）の白い子駱駝とその母駱駝に結びつけ、民族の誇りとなった馬頭琴（モリンホール）によって表現し、雄大な構想、深遠な意味、時間の長い歴史を、きわめて短い、抒情的な、明瞭な、感覚的な描写によって、「馬頭琴の二本の弦の上を母と子の二頭の駱駝が八百年間にわたって駆け抜け、今の私たちのゴビ地方に残された」という思いを、魅惑的かつ芸術的に表現している。これこそ、詩人の文学における時間の範疇を芸術的な描写に利用した、一つの驚嘆すべき芸術手法にほかならない。「失われた愛の後から（Алдагдсан хайрын хойноос）」という詩では、アラシャー右旗の地域の大部分を占める「バダイン・ジャラン」という美しい砂砂漠（すなさばく）を、ゴビ地方に住む人びとの過ごしてきた悲しい生活の暗黒面として擬人化し描いているのもまた興味深い表現である。四行詩にある「年輪を刻んだ皺（буурал үрчлээс）」、「身を刺すような黄土色の砂嵐（баттарсан шар салхи）」、「飲み込めない一杯の果実酒（балгаж орохгүй хундага дарс）」、「暗灰色の悲哀（бараан саарал гуниг）」という語句は、詩人の心の奥底からあふれ出た、先祖や父母の生活の教えから生まれた歴史的事実であり、現代の生活にも見られる詩人の絹のような感覚的表現となっている。そして、これらすべてが混然一体となり、詩人から読者に向けた心情の開示となり、心奥のことばとなっているのが見て取れるのである。